

通し番号	4916
------	------

分類番号	30-34-12-03
------	-------------

ジョイント栽培の接ぎ木資材にビニルテープを使用することで省力的な接ぎ木が可能です

[要約] ジョイント栽培の接ぎ木用結束資材にビニルテープ類を使用することで、結束バンドを利用した慣行法に対し、枝の肥大に伴うバンドの調節作業が省かれ、簡易で省力的な接ぎ木が可能となる。この手法は、接ぎ木部の癒合も良好で、コストも抑えられる。

神奈川県農業技術センター・生産技術部

連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

県東部を中心にナシ栽培の省力化と作業姿勢の改善からジョイントV字トレリス樹形への改植導入が始まっているが、ジョイント栽培導入時の必須作業である主枝部の接ぎ木について、手法の簡易化や接ぎ木後の管理について省力化が望まれていた。そこで、結束部の調節作業が必要な結束バンドを用いず、接ぎ木後のメンテナンスも容易な、省力的な接ぎ木法についてビニルテープの利用を検討した。

[成果の内容・特徴]

- 1 結束資材としてビニルテープを利用し、主枝誘引用の支線も同時に巻き込む省力的な接ぎ木法を新たに開発した。
- 2 接ぎ木に要する時間は慣行法と同等であるが、枝の肥大に伴うバンドの調節作業が省かれ、作業時間は1カ所当り422秒の慣行法に対して247秒になり、41%削減される(図1、2)。
- 3 接ぎ木1年後の接ぎ木部の癒合状況は、テープの枝への食い込みや表皮の傷は認められず、癒合は慣行法と同等か良好な状態である(図3、表1)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 この手法は平棚のジョイント栽培についても利用可能であるが、苗木が硬く、強い結束力が必要になる場合は、従来の結束バンドを用いた手法で接ぎ木を行う。
- 2 接ぎ木時に必要な資材は、ビニルテープ(1巻き10mで20~25カ所の接ぎ木が可能)、主枝部分の誘引用ゴムバンド、接ぎ木部乾燥防止用の癒合剤である。
- 3 詳細な接ぎ木手法や各工程の注意点等については、関係機関、生産者等へ配布予定の「ジョイント栽培接ぎ木マニュアルVer.4」を参照(アドレス決定後掲載)。
- 4 使用後のビニルテープ等のプラ系資材については、ほ場に放置せずに回収し、各自治体のルールに従い適正に処分する。
- 5 ジョイントV字トレリス樹形での結果である。

[具体的データ]

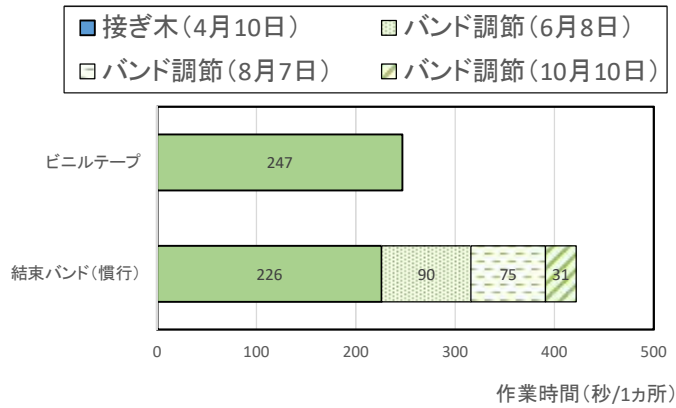


図1 結束資材別の作業時間の比較



図2 ビニルテープによる接ぎ木



図3 接ぎ木1年後の癒合状態 (左: ビニルテープ、右: 結束バンド)

表1 主枝接ぎ木時の結束資材別の1年後の接ぎ木部癒合状況

結束資材	供試数	良好	やや不良	不良
ビニルテープ	21	20	1	0
結束バンド(慣行)	6	5	1	0

癒合状況(良好:接ぎ木面全体が活着、やや不良:一部が未活着、不良:接ぎ木面半分以上が未活着)

[資料名] 平成28～30年度試験研究成績書(果樹)

[研究課題名] 密植導入における省力化技術の開発
低コスト簡易接ぎ木法の開発

[研究期間] 平成28～30年度

[研究者担当名] 柴田健一郎・関 達哉・廣瀬 恭祐